

## 外国人支援団体との交流会

外国人の権利に関する委員会研修員 有園 洋一 (72期)

### 1 初のウェビナー形式による開催

2020年12月4日に行われた外国人支援団体との交流会は、コロナ禍による3密防止の観点より、例年の弁護士会館内での形式から、一般参加も可能なウェビナー形式へと変更して開催された。

交流会では2つのテーマについて講演が行われた。1つは「多文化背景をもつ子どもの心理発達の課題および多文化臨床の実践」というテーマで、国立国際医療研究センター小児科めじろそらクリニックにおいて、子どもの発達支援と心理的課題の解決に尽力されている臨床心理士・公認心理師の津田友里香氏にご講演いただいた。もう1つは「ヘイトスピーチの現状と打開策」というテーマで、差別のない市民社会の実現に向け第一線の活動を続けてこられ、今年度の東京弁護士会人権賞を受賞された崔江以子氏にご講演いただいた。以下、これら2つのテーマに関する講演の概要を紹介したい。

### 2 テーマ1「多文化背景をもつ子どもの心理発達の課題および多文化臨床の実践」

親のいずれかもしくは両方が外国籍である場合や、難民の親のもとに生まれた子どもなど、外国ルーツの子どもたちは、親の持つ文化的背景と日本社会の文化との間で苦しむことが多い。また、家庭内で複数の言語がかわさるといふ養育環境によって、言語面での発達が年齢に相応せず、結果としてその後の教育を受けるにあたり不利な立場に置かれることもある。このような外国ルーツの子どもたちを支援する上で生じる様々な問題とその対応について、実際に津田氏が弁護士と協力して取り組んだ実践例をもとに講演が行われた。

外国ルーツの子どもについて、その特有の悩みや心理状態を正確に理解するには、養育環境、家族関係、学校での様子など様々な角度から総合的な判断が求められる。また、子どもの心理発達課題をきちんと把握するには、言語、学習、

知的、情緒といった多角的な面からの能力測定が前提として不可欠である。

津田氏は、弁護士が外国ルーツの子どもたちと関わる際には、これらの点を常に意識して取り組む必要があり、状況に応じて適宜各分野の専門家との連携が有用であると説いておられた。

### 3 テーマ2「ヘイトスピーチの現状と打開策」

2015年11月18日、子どもやお年寄りも多数暮らす穏やかな川崎市の住宅街に、突如「死ね」「たたきだせ」などと叫ぶ集団が現れた。このヘイトデモは住民に大きな衝撃と恐怖を与え、この日以降、住民はいつまた生活の場が踏みにじられるのではないかと、不安と緊張の日々を送るようになった。

悪質なヘイトデモの根絶に向けた崔氏ら有志の活動が功を奏し、2016年にはいわゆるヘイトスピーチ解消法が立法され、2019年末には川崎市議会の全会派の一致でヘイト表現への罰則を定めた禁止条例が制定されるなど、対策は着実に進められている。

しかし今もなお、インターネットは様々なヘイト表現で溢れ、脅迫などのヘイトクライムも後を絶たず、選挙活動に仮託したヘイトスピーチなども堂々で行われている。崔氏はこの現状に既存の法律や条例では対処が追いついていないと憂いつつも、あらゆるヘイトスピーチの根絶や被害救済に向け、今後も市民・行政・議会が団結して取り組む必要があることを強調しておられた。

### 4 交流会に参加して

外国人の人権・権利保障を巡っては、法律家だけでは対応できない諸問題が多岐に渡り存在している。今回の交流会を通じ、それらの一端に触れることができた。私たち弁護士は、今後も一層、外国人を支援している専門家や諸団体との連携を深めていく必要がある。

## 2021年度 東弁役員等選挙 次期会長は 矢吹公敏会員

2021年度東弁会長、副会長、監事、常議員及び日弁連代議員の選挙が1月25日（月）に公示されたが、いずれも定員以内の立候補に留まったため、予定していた不在者投票及び投票は行われなかった。

当選者は、会規により2月5日（金）午後4時の経過と同時に確定し、確定後、役員当選者の当選証書交付式が6階来賓室で行われた。



### 東弁役員選挙結果

■ 会長選挙 当選者（無投票）  
矢吹 公敏（39期）

■ 副会長選挙 当選者（無投票・立候補届出順）  
志賀 剛一（41期）  
椀嶋 裕之（42期）  
兼川 真紀（48期）  
中井 陽子（54期）  
堂野 達之（52期）  
三澤 英嗣（48期）

■ 監事選挙 当選者（無投票・立候補届出順）  
栢割 秀和（52期）  
三枝 恵真（55期）

※常議員、日弁連代議員名簿はLIBRA4月号に掲載予定